

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2014年5月22日(22.05.2014)



(10) 国際公開番号
WO 2014/076975 A1

- (51) 国際特許分類:
A45D 44/22 (2006.01) A61H 23/02 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2013/053774
- (22) 国際出願日: 2013年2月6日(06.02.2013)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2012-248883 2012年11月13日(13.11.2012) JP
- (71) 出願人: 有限会社サンライズ(SUNRISE Co., Ltd.)
[JP/JP]; 〒2300051 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央4-8-12 Kanagawa (JP).
- (72) 発明者: 金 鐘澤(KIM, JONG THEK); 京畿道始興市正往洞1353-5 始華工團1 Ma-7 06 Gyeonggi-do (KR).
- (74) 代理人: 橘 祐史(Tachibana, Yushi); 〒1540003 東京都世田谷区野沢4丁目22-11-802 Tokyo (JP).
- (81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA,

BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, JP, KE, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

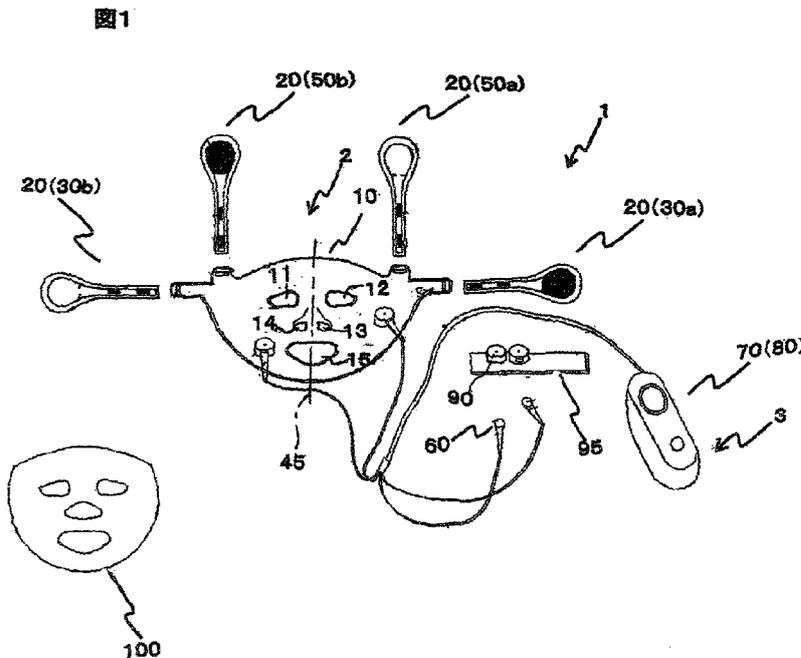
- (84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

- 国際調査報告(条約第21条(3))

(54) Title: BEAUTY MASK DEVICE

(54) 発明の名称: 美容マスク装置



(57) Abstract: Provided is a beauty mask device capable of further smoothing out facial wrinkles and improving the maintenance of healthy and beautiful skin, that simultaneously achieves a facial shape-up, and is capable of improving facial treatment effects. The beauty mask device (1) comprises: a beauty mask (2) having a mask main body (10) that is applied to the face; and a vibration generator (3) having a vibrator (60) that is applied to a prescribed site on the mask main body (10), and which causes vibration to be generated at prescribed sites on the face, via the mask main body (10). The beauty mask (2) has the mask main body (10), a left/right direction stretching section (30), and a height direction stretching section (50). Facial skin can be pulled in the left/right direction and the height direction by pulling the mask main body (10) in the left/right direction and the height direction, using these stretching sections (30, 50).

(57) 要約: 顔の皺を更にのばし健康で美しい肌を一層維持することができるのと同時に、同時に顔のシェイプアップも実現して、美顔効果を向上させることができる美容マスク装置を提供する。顔に装着されるマスク本体部(10)を有する美容マスク(2)と、マスク本体部(10)の所定部位に装着される振動器(60)を有しマスク本体部(10)を介して顔の所定部位に振動を発生させる振動発生機(3)と、を備える美容マスク装置(1)において、美容マスク(2)は、マスク本体部(10)と左右方向引っ張り部(30)と高さ方向引っ張り部(50)を有し、これら引っ張り部(30、50)によりマスク本体部(10)を左右方向および高さ方向に引っ張ることにより顔の表皮を左右方向及び高さ方向に引っ張ることができる。

WO 2014/076975 A1

明 細 書

発明の名称

美容マスク装置

5 技術分野

本発明は、美容マスク装置に関し、特に顔に振動を発生させる振動発生機を備え、顔の血液の循環および細胞の活性化を促進させることができる美容マスク装置に関する。

10 背景技術

従来から美容マスクと振動器を用いた顔の美容方法やスキンケアが広く行われている。すなわち、例えば、特許文献1に開示された皮膚吸収向上装置（美容マスク装置）は、図14に示すように、顔の所定部位にパッチ110を貼り付けた状態でパッチ110の上から顔に美容マスク120を装着しつつ、美容マスク120のパッチ110の貼り付け部位に振動器140を取り付けて該貼り付け部位に振動を発生させる。これにより、顔の血液の循環および細胞の活性化を促進させてパッチ110の有効成分を効果的に顔に吸収させ、顔の皺をのぼし健康で美しい肌を維持することができる。

20

先行技術文献

特許文献

特許文献1；韓国特許公報10-0837083号

25

発明の概要

発明が解決しようとする課題

近年は、需要者の美への要求がますます高まっており、上述した美容マスク装置において、従来にも増して顔の皺をのぼし健康で美しい肌を維持することが強く望まれている。また、健康で美しい肌を維持するのみならず同時に顔をシェイプアップすることができ、美顔効果を向上させることができる美容マスク装置の開発も強く望まれていた。

本発明はこのような事情に鑑みてなされたもので、顔の皺を更にのぼし健康で美しい肌を一層維持することができるとともに、同時に顔のシェイプアップも実現して、美顔効果を向上させることができる美容マスク装置を提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

上記目的を達成するために、請求項1に係る発明は、顔に装着されるマスク本体部を有する美容マスクと、マスク本体部に装着される振動器を有しマスク本体部を介して顔に振動を発生させる振動発生機と、を備える美容マスク装置において、美容マスクは、マスク本体部を引っ張ることにより顔の表皮を引っ張る引っ張り部を有することを特徴とする。

本発明によれば、上記振動発生機を備える美容マスク装置において、美容マスクは、マスク本体部を引っ張ることにより顔の表皮を引っ張る引っ張り部を有することとしたので、顔に振動を発生させながら顔の表皮を引っ張ることができ、顔の皺を更にのぼし健康で美しい肌を一層維持することができる。また、同時に顔のシェイプアップも実現し、従来にも増して美顔効果を向上させることができる。

引っ張り部によるマスク本体部の引っ張り方向は、左右方向および

高さ方向のうち少なくともいずれか一方を含み、引っ張り部は、マスク本体部を左右方向に引っ張ることにより顔の表皮を左右方向に引っ張る左右方向引っ張り部およびマスク本体部を高さ方向に引っ張ることにより顔の表皮を高さ方向に引っ張る高さ方向引っ張り部のうち少なくともいずれか一方を有することとすることができる（請求項2）。

左右方向引っ張り部は、顔の左側に設けられる左方向引っ張り部を有するとともに、左方向引っ張り部と顔の左右方向の中心ラインを介して対称な位置に、かつ、顔の右側に設けられる右方向引っ張り部を有し、高さ方向引っ張り部は、顔の左側に設けられる左側高さ方向引っ張り部を有するとともに、左側高さ方向引っ張り部と対称な位置であって顔の右側に設けられる右側高さ方向引っ張り部を有することとすれば、顔の表皮が対称に引っ張られて引っ張り部による引っ張り力を均等に付与することができるので好ましい（請求項3）。

左側高さ方向引っ張り部は、顎から顔の左側部にかけて顔の表皮を高さ方向に引っ張るように形成され、右側高さ方向引っ張り部は、顎から顔の右側部にかけて顔の表皮を高さ方向に引っ張るように形成されることとすれば、顎から顔の側部にかけてのラインのシェイプアップに寄与することができる（請求項4）。

ここで、美容マスクは、顔の目、鼻、口に相当する部分に開口を設けつつ、顔の全体に至って、額、頬、顎を覆うように形成されるとともに、左側高さ方向引っ張り部および左方向引っ張り部は、マスク本体部の左側端部に設けられた左側基部を有し、かつ、右側高さ方向引っ張り部および右方向引っ張り部は、マスク本体部の右側端部に設けられた右側基部を有し、左方向引っ張り部は左側基部から左方向に延びる左方向延長部を有して顔の表皮を左方向に引っ張るように形成され、右方向引っ張り部は右側基部から右方向に延びる右方向延長部を

有して顔の表皮を右方向に引っ張るように形成され、左側高さ方向引
80 っ張り部は、左側基部から高さ方向に延びる左側高さ方向延長部を有
して顎から顔の左側部にかけて顔の表皮を高さ方向に引っ張るように
形成され、右側高さ方向引っ張り部は、右側基部から高さ方向に延び
る右側高さ方向延長部を有して顎から顔の右側部にかけて顔の表皮を
高さ方向に引っ張るように形成されることとすることができる（請求
85 項5）。

基部は、目の高さの相当位置に設けられるとともに、基部の輪郭線
は、マスク本体部の額相当部の輪郭線と所定の曲線をもって滑らかに
連続するように形成される上側輪郭線と、マスク本体部の顎相当部の
輪郭線と所定の曲線をもって滑らかに連続するように形成される下側
90 輪郭線と、上側輪郭線の後端と下側輪郭線の後端を高さ方向に結んで
形成される後側輪郭線と、を含み、更に、基部は、側方に延び、かつ、
側方に行くにしたがって幅寸法が漸次減少するようにハの字状に形成
され、左方向延長部および右方向延長部は、後側輪郭線側から左右方
向に延びるように形成され、左側高さ方向延長部および右側高さ方向
95 延長部は、上側輪郭線から高さ方向に延びて顎から顔の側部にかけて
顔の表皮を高さ方向に引っ張るように形成されることとすれば、左右
方向引っ張り部の引っ張り力を左右の基部を介してハの字状に広げな
がら顔全体に行き渡らせることができ、また顎から顔の側部にかけて
顔の表皮を高さ方向に引っ張ることができ、美顔効果を更に一層向上
100 させることができる（請求項6）。

マスク本体部は、可撓性を有する材料で形成されることとすれば、
マスク本体部を顔の形状に容易に変形させつつ顔に密着して装着させ
ることができる（請求項7）。

振動発生機は、振動器により発生する振動の強度、周期、またはリ

105 ズムを設定する設定器を有することとすれば、振動の強度、周期、またはリズムを適宜に設定することにより美顔効果を容易に調節することができる。また、美容マスクを長時間装着する際には使用者がストレスを感じることもあるが、特に振動のリズムを適宜に設定することにより使用者のストレスの緩和に寄与することができる(請求項8)。

110

発明の効果

本発明によれば、顔の皺を更にのばし健康で美しい肌を一層維持することができるとともに、顔のシェイプアップも実現して、美顔効果を向上させることができる。

115

図面の簡単な説明

図1は、本発明の実施形態に係る美容マスク装置の全体構成を示す図である。

120 図2は、美容マスク装置における美容マスクの左側の構成を示す図である。

図3は、美容マスク装置における美容マスクの右側の構成を示す図である。

図4は、美容マスクの左方向引っ張り部による引っ張り力の伝わり方を説明するための図である。

125 図5は、美容マスクの右方向引っ張り部による引っ張り力の伝わり方を説明するための図である。

図6は、美容マスクの左右方向引っ張り部の引っ張り方向を説明するための図である。

130 図7は、美容マスクの高さ方向引っ張り部による引っ張り力の伝わり方を説明するための図である。

図 8 は美容マスクを左右方向および高さ方向のいずれにも引っ張った状態を示す図である。

図 9 は、美容マスクの高さ方向引っ張り部の引っ張り角度を説明するための図である。

135 図 10 は、引っ張り部における延長部の締結方法を説明するための図で、(a) は延長部と連結部が締結する前の状態を示す図、(b) は延長部の連結側を連結部の挿入孔に差し込んだ状態を示す図、(c) は延長部の差し込み部分を折り返してマジックテープにより連結部分が締結された状態を示す図、(d) は延長部の終端部が相互に締結された状態を示す図である。

図 11 は、振動発生機による振動の強度および周期を説明するための図である。

図 12 は、振動器ハウジングの構成を示す図で、(a) は上部側の上面図、(b) は側面図、(c) は下部側の底面図である。

145 図 13 は、振動器ハウジングへの振動器の挿入動作を説明するための図で、(a) は振動器が挿入される前の状態を示す図、(b) は振動器が挿入され振動器ハウジングが変形し、かつ、収納空間の空気が外部に抜ける状態を示す図、(c) は振動器が振動器ハウジングに挿入された状態を示す図である。

150 図 14 は、従来美容マスク装置を示す図である。

発明を実施するための形態

実施例

以下、本発明の実施形態について図面を参照して詳細に説明する。

155 なお、以下においては人の左手側を左側、右手側を右側、背後側を後側として説明するものとする。図 1 は本発明の実施形態を示す美容マ

スク装置の全体構成を示す図である。同図を参照して美容マスク装置
1の概要を説明すると、美容マスク装置1は、美容マスク2と振動発
生機3とを有しており、顔の所定部位にパッチ100を貼り付けた状
態で顔に美容マスク2を装着しつつ、振動発生機3により顔のパッチ
100の貼り付け部位に振動を発生させることができる。

美容マスク2は、マスク本体部10と引っ張り部20を有している。

マスク本体部10は、人の顔の形状に形成されており、平面的に見
ると略楕円形をなしている。すなわち、マスク本体部10は、顔の目、
鼻、口に相当する部分に開口11乃至15が設けられるとともに、顔
の全体に至り、顔に装着したときに額、頬、顎を覆うように形成され
ている。このマスク本体部10は、可撓性、伸縮性、および弾力性を
有する軟質な材料で形成されており、顔の形状に応じて柔軟に変形や
伸縮をさせながら容易に顔に密着して装着することができる。また、
マスク本体部10は、吸着性乃至接着性を有する材料で形成されてお
り、顔に対する密着した装着状態を安定して維持することができる。

本発明においては、マスク本体部10を形成する材料として、シリ
コンが採用されている。マスク本体部10を形成する材料としては、
シリコンの他にポリビニルアルコール（PVA）、キトサン（Chit
osan）、ポリエチレンオキサイド（PEO）、PET-PEB blend
（ポリエチレンテレフタレートとポリブチレンテレフタレートのブレ
ンド）、およびポリウレタン（PU）等、またはシリコンも含めてこ
れらの混合物等の天然素材および生体適合性素材が使用可能である。
このような材料を使用することで、マスク本体部10の長時間の装着
による肌アレルギーや肌刺激も防止することができる。

このように構成されたマスク本体部10は、パッチ100を顔の所
定部位に貼り付けた状態でパッチ100の上から顔に装着される。本

発明においては、パッチ100は、生体親和性素材、生体適合性素材を用いて形成されている。このパッチ100の素材には、振動発生機
185 3による振動等の物理的な力によっても変形や物性の変化がないこと、有効成分の肌への伝達が容易であること等が更に要求される。つまり、パッチ100の素材としては、凍結乾燥シート、カーゼ、不織布、フィルム、ハイドロゲル等が更に用いられる。なお、パッチ100は薄いシート状をなしており、有効成分の一定量を一定時間で投与すべく
190 構成されている。

引っ張り部20は、マスク本体部10を左右方向に引っ張る左右方向引っ張り部30と、高さ方向に引っ張る高さ方向引っ張り部50と、を有しており、顔の表皮を左右方向および高さ方向に引っ張ることができる。

195 左右方向引っ張り部30は、左方向引っ張り部30aと、右方向引っ張り部30bと、を有している。

図2に示すように、左方向引っ張り部30aは、顔の左側に設けられ、マスク本体部10の左側端部16aから延びるように形成されている。すなわち、左方向引っ張り部30aは、左側基部31aと連結部32aと左方向延長部33aを有しており、左側基部31aは、目の高さ相当位置に、かつ、マスク本体部10の左側端部16aに設けられている。左方向延長部33aは、連結部32aを介して左側基部31aと連結しており、左方向に延びている。

ここで、左側基部31aは、マスク本体部10の左側端部16a、
205 上側輪郭線34a、下側輪郭線35a、および後側輪郭線36aに囲まれた領域として設定されている。すなわち、上側輪郭線34aは、マスク本体部10の左側の額相当部の輪郭線37aと所定の曲線をもって滑らかに連続するように形成されている。また、下側輪郭線35a

は、マスク本体部 10 の左側の顎相当部の輪郭線 38 a と所定の曲線
210 をもって滑らかに連続するように形成されている。更に、後側輪郭線
36 a は、上側輪郭線 34 a の後端と下側輪郭線 35 a の後端を高さ
方向に結んで形成されている。

つまり、このように形成された左側基部 31 a は、左側方に延び、
かつ、左側方に行くにしたがって幅寸法が漸次減少するようにハの字
215 状に形成され、左方向延長部 33 a は後側輪郭線 36 a 側から左方向
に延びるように形成されている。

図 1 に戻り、右方向引っ張り部 30 b は、左方向引っ張り部 30 a
と顔の左右方向の中心ライン 45 を介して対称な位置に設けられてい
る。すなわち、図 3 に示すように、右方向引っ張り部 30 b は、顔の
220 右側に設けられ、マスク本体部 10 の右側端部 16 b から延びるよう
に形成されている。

つまり、右方向引っ張り部 30 b も同様に、右側基部 31 b と連結
部 32 b と右方向延長部 33 b を有しており、右側基部 31 b も、目
の高さ相当位置に、かつ、マスク本体部 10 の右側端部 16 b に設け
225 られている。右方向延長部 33 b は、右側基部 31 b と連結部 32 b
を介して連結し、右方向に延びている。

右側基部 31 b も、右側端部 16 b、上側輪郭線 34 b、下側輪郭
線 35 b、および後側輪郭線 36 b に囲まれた領域として設定されて
おり、上側輪郭線 34 b は、右側の顎相当部の輪郭線 37 b と所定の
230 曲線もって滑らかに連続するように形成され、下側輪郭線 35 b は、
右側の顎相当部の輪郭線 38 b と所定の曲線をもって滑らかに連続す
るように形成され、後側輪郭線 36 b は、上側輪郭線 34 b の後端と
下側輪郭線 35 b の後端を高さ方向に結んで形成されている。

つまり、このように形成された右側基部 31 b は、右側方に延び、

235 かつ、右側方に行くにしたがって幅寸法が漸次減少するようにハの字状に形成され、右方向延長部 3 3 b は後側輪郭線 3 6 b 側から右方向に延びるように形成されている。

以上の如く構成された左方向引っ張り部 3 0 a および右方向引っ張り部 3 0 b は、それぞれ後頭部まで達する。つまり、各延長部 3 3 a ,
240 3 3 b を引っ張った状態で相互に終端部 4 5 a , 4 5 b を後頭部で締結する。これにより、図 4 および図 5 に示すように、各延長部 3 3 a , 3 3 b の引っ張り力が左右の基部 3 1 a , 3 1 b を介してハの字状に広がりながらマスク本体部 1 0 の全体に行き渡り左右方向の広範囲に渡って顔の表皮が引っ張られる。よって、顔の皺を広範囲に渡っての
245 ばしつと同時にシェイプアップすることができ、従来にも増して美顔効果を更に一層向上させることができる。

なお、上述からも明らかなように、本発明において左方向引っ張り部 3 0 a および右方向引っ張り部 3 0 b の引っ張り方向は、左方向延長部 3 3 a および右方向延長部 3 3 b が相互に締結される方向つまり
250 顔の側部から後頭部に延びる方向として定義される。より詳しくは、図 6 に示すように、本発明においては、左右方向引っ張り部 3 0 の引っ張り方向は、水平軸方向に対し + 1 0 ° 乃至 - 1 0 ° の範囲に設定される。この引っ張り方向は、水平軸方向つまり水平方向 0 ° に設定するのが好ましく、図 1 乃至図 5 に示す実施形態においても左右の引
255 っぱり方向を水平方向 0 ° に設定した例を示している。

図 1 に戻り高さ方向引っ張り部 5 0 は、左側高さ方向引っ張り部 5 0 a と右側高さ方向引っ張り部 5 0 b を有している。

図 2 に詳細を示すように、左側高さ方向引っ張り部 5 0 a は、顔の左側に設けられ、マスク本体部 1 0 の上述した左側基部 3 1 a の上側
260 輪郭線 3 4 a から高さ方向に延びるように形成されている。すなわち、

左側高さ方向引っ張り部 50 a は、上述した左方向引っ張り部 30 a と左側基部 31 a を共有しつつ、連結部 52 a と左側高さ方向延長部 53 a を有している。左側高さ方向延長部 53 a は、連結部 52 a を介して左側基部 31 a の上側輪郭線 34 a と連結し、顔の左側から高さ方向に延びている。なお、連結部 52 a と同幅の領域であって、左側高さ方向延長部 53 a の延長方向と反対方向に連結部 52 a から延びる領域 52 c が、左側基部 31 a の一部を介してマスク本体部 10 の左側縁部（つまりマスク本体部 10 の顎相当部から顔の頬相当位置であって顔の左側部相当部にかけての部分）を含むように、連結部 52 a が設けられている。つまり、左側高さ方向延長部 53 a に引っ張り力が付与されたとき、マスク本体部 10 を介して顎から顔の左側部にかけて付与された引っ張り力が効率よく及ぶように構成されている。

図 3 に詳細を示すように、右側高さ方向引っ張り部 50 b は、顔の右側に設けられ、マスク本体部 10 の上述した右側基部 31 b の上側輪郭線 34 b から延びるように形成されている。すなわち、右側高さ方向引っ張り部 50 b は、右方向引っ張り部 30 b と右側基部 31 b を共有しつつ、連結部 52 b と右側高さ方向延長部 53 b を有しており、右側高さ方向延長部 53 b は、連結部 52 b を介して右側基部 31 b の上側輪郭線 34 b と連結し、顔の右側から高さ方向に延びている。なお、上述した左側と同様に右側においても、連結部 52 b と同幅の領域であって、右側高さ方向延長部 53 b の延長方向と反対方向に連結部 52 b から延びる領域 52 d が、右側基部 31 b の一部を介してマスク本体部 10 の右側縁部（つまりマスク本体部 10 の顎相当部から顔の頬相当位置であって顔の右側部相当部にかけての部分）を含むように、連結部 52 b が設けられている。つまり、右側高さ方向延長部 53 b に引っ張り力が付与されたとき、マスク本体部 10 を介

して顎から顔の右側部にかけて付与された引っ張り力が効率よく及ぶように構成されている。

以上の如く構成された左側高さ方向延長部 5 3 a および右側高さ方向延長部 5 3 b は、それぞれ頭頂部まで達することができ、左側高さ方向延長部 5 3 a を左側から高さ方向に引っ張り、右側高さ方向延長部 5 3 b を右側から高さ方向に引っ張る。そして、各延長部 5 3 a , 5 3 b を引っ張った状態で相互に終端部 5 7 a , 5 7 b を頭頂部で締結する。これにより、左側高さ方向引っ張り部 5 0 a は、顎から顔の左側部にかけて顔を高さ方向に引っ張るように構成され、右側高さ方向引っ張り部 5 0 b は、顎から顔の右側部にかけて顔を高さ方向に引っ張るように構成される。つまり、図 7 に示すように、各延長部 5 3 a , 5 3 b の引っ張り力を、マスク本体部 1 0 を介して側方から頬および顎に伝えつつ顔を高さ方向に引っ張ることができ、顔の皺をのばす効果は勿論のこと、顎から顔の側部にかけてのラインのシェイプアップにも同時に寄与することができる。また、図 8 に示すように、左右方向引っ張り部 3 0 および高さ方向引っ張り部 5 0 により顔の表皮を左右方向および高さ方向のいずれにも引っ張ることにより、顔の皺のぼしやシェイプアップに相乗した効果がもたらされるのも勿論である。

なお、上述からも明らかのように、本発明において高さ方向引っ張り部 5 0 の引っ張り方向は、高さ方向延長部 5 3 a , 5 3 b が相互に締結される方向つまり顔の側部から頭頂部に延びる方向として定義される。より詳しくは、図 9 に示すように、本発明においては、高さ方向引っ張り部 5 0 の引っ張り方向は、水平軸方向に対し 50° 乃至 90° の範囲に設定される。

上述した各延長部 3 3 a , 3 3 b , 5 3 a , 5 3 b の締結方法の詳細

細は以下の通り説明される。

すなわち、図10に示すように、左右方向引っ張り部30および高さ方向引っ張り部50の各延長部33a, 33b, 53a, 53bは、
315 連結部32a, 32b, 52a, 52bとの連結側に所定の間隔41a, 41b, 51a, 51bをおいてそれぞれ2か所にマジックテープ42aおよび43a, 42bおよび43b, 54aおよび55a, 54bおよび55bを設けている(図10(a))。

つまり、各延長部33a, 33b, 53a, 53bのマジックテープ42a, 42b, 54a, 54b部分を連結部32a, 32b, 52a, 52bの挿入口39a, 39b, 56a, 56bに間隔41a, 41b, 51a, 51bの中間部まで差し込み(図10(b))、次いで差し込み部分を折り返して、マジックテープ42a, 42b, 54a, 54bと他方のマジックテープ43a, 43b, 55a, 55bを締結する(図10(c))。これにより、連結部32a, 32b, 52a, 52bと各延長部33a, 33b, 53a, 53bを連結することができる。
325

各延長部33a, 33b, 53a, 53bは終端部45a, 45b, 57a, 57bにもマジックテープを設けており、終端部45a, 45b, 57a, 57bの相互間もマジックテープを介して締結することができる(図10(d))。
330

なお、マジックテープ42aおよび43a, 42bおよび43b, 54aおよび55a, 54bおよび55bの位置を適宜に設定することにより、様々な顔の大きさや要求される引っ張り力に対応することができる。
335

上述した左右方向引っ張り部30および高さ方向引っ張り部50の左側基部31a、右側基部31b、連結部32a, 32b, 52a,

5 2 b は、マスク本体部 1 0 と一体に形成されており、いずれもシリ
340 コン、ポリビニルアルコール（PVA）、キトサン（Chitosan）、ポリエチレンオキサイド（PEO）、PET-PEB blend（ポリエチ
レンテレフタレートとポリブチレンテレフタレートのブレンド）、お
よびポリウレタン（PU）等またはこれらの混合物等の天然素材およ
び生体適合性素材が使用される等、上述したマスク本体部 1 0 と同様
345 の材料で形成されている。すなわち、左側基部 3 1 a、右側基部 3 1
b、連結部 3 2 a、3 2 b、5 2 a、5 2 b も、可撓性、伸縮性、お
よび弾力性を有し、かつ、吸着性乃至接着性も有する軟質な材料で形
成され、顔に密着して装着することができる。

図 1 に戻り、振動発生機 3 は、振動器 6 0、振動設定器 7 0、電源
350 8 0、および振動器ハウジング 9 0 を有している。

すなわち、振動器 6 0 は、モータを内蔵しており、電源 8 0 により
電力を供給することにより、モータを動作させることができる。電源
8 0 には乾電池等が使用され、電源 8 0 は、振動設定器 7 0 に内蔵さ
れている。振動設定器 7 0 は、電源 8 0 のオンオフを行う他、振動器
355 6 0 により発生する振動を適宜に設定することができる。

すなわち、振動器 6 0 の振動は、振動設定器 7 0 の操作部を操作す
ることにより強度を変更したり、図 1 1 に示すように長さや周期を変
更したり、更には各種のリズムに変更することができる。このように、
振動の強度、長さ、周期、またはリズムを適宜に設定することにより
360 美顔効果を調節することができる。また、美容マスク 2 を長時間装着
する際には使用者がストレスを感じることもあるが、特に振動のリズ
ムを適宜に設定することにより使用者のストレスの緩和にも寄与す
ることができる。なお、振動設定器 7 0 は記憶部と設定部を有し、予め
各種のリズムが記憶部に記憶されるとともに、振動設定器 7 0 の操作

365 部を所要に操作することにより、設定部が振動器 60 により発生する振動のリズムを、記憶された各種のリズムに設定することができる。また、振動設定器 70 は、操作部を所要に操作することにより、使用者が任意に各種のリズムを生成することができる生成部を有し、同様に操作部を所要に操作することにより、設定部が振動器 60 により発生する振動のリズムを、生成部により生成された各種のリズムに設定することができる。振動のリズムは、振動の強度、長さ、周期を適宜に組み合わせて生成することができ、例えば、音楽のリズムや手拍子のリズム等に設定される。

375 ここで、振動器 60 は、振動器ハウジング 90 に収納されつつマスク本体部 10 に装着される。図 12 に示すように、振動器ハウジング 90 は、振動器 60 と略同形で短尺な円柱形状に形成されており、上部側に収納空間部 91 および挿入口 92 を有し、下部側に接着部 93 を有している。

380 すなわち、振動器ハウジング 90 は、挿入口 92 を介して振動器 60 を挿抜自在に収納空間部 91 に収納する。そして、接着部 93 は、マスク本体部 10 と着脱自在に接着可能な構成となっている。

385 つまり、振動器 60 の美容マスク 2 への接着により接着部 93 に塵が付着する等汚れることが多いが、このように接着部 93 が汚れる場合にあっては、振動器 60 から振動器ハウジング 90 を外して別の振動器ハウジング 90 を振動器 60 に装着すればよく、美容マスク装置 1 の使用が中断されることが少ない。また、汚れが酷い場合にあっても、振動器 60 の交換を要することなく振動器ハウジング 90 の交換をすれば足りるので使用者の経済的な負担も緩和することができる。

390 また、収納空間部 91 および挿入口 92 の寸法は、振動器 60 の寸法よりも小さく設定されている。これにより、振動器 60 を隙間なく

収納空間部 9 1 に密着して収納することができ、振動器 6 0 による振
動を、振動器ハウジング 9 0 を介しても顔に確実に伝達することがで
きる。また、挿入口 9 2 を振動器 6 0 の寸法よりも小さく設定するこ
とで、振動器ハウジング 9 0 から振動器 6 0 が抜け出すことを確実に
395 防止することができる。

ここで、振動器ハウジング 9 0 は、可撓性、伸縮性、および弾力性
を有し、かつ、吸着性乃至接着性を有する軟質な材料で形成されてい
る。

すなわち、図 1 3 に示すように、収納空間部 9 1 および挿入口 9 2
400 の寸法を振動器 6 0 の寸法よりも小さく設定しても、振動器ハウジ
ング 9 0 を柔軟に変形させながら振動器 6 0 を収納することができ、振
動器 6 0 の挿入動作を容易に行うことができる。なお、本発明におい
ては、振動器ハウジング 9 0 は接着部 9 3 を含め、シリコンで形成さ
れている。接着部 9 3 をシリコンで形成することで数万回の使用に耐
405 え得る。

更に振動器ハウジング 9 0 は、上面に孔 9 4 を有している。すなわ
ち、孔 9 4 は、挿入口 9 2 と異なるに位置に設けられる孔であって、
収納空間部 9 1 と連通するように設けられている。よって、振動器 6
0 を挿入口 9 2 から挿入する際に収納空間部 9 1 が密閉空間とならず
410 空気を外部に抜きながら振動器 6 0 を挿入することができ、振動器 6
0 の挿入動作を更に容易に行うことができる。

なお、振動発生機 3 は振動器ハウジング 9 0 を載置するボード 9 5
を有している。振動器 6 0 を使用しない場合は、振動器ハウジング 9
0 に振動器 6 0 を収納したままの状態では振動器ハウジング 9 0 の接着
415 部 9 3 をボード 9 5 に接着させて保管する。また、予備の振動器ハウ
ジング 9 0 もボード 9 5 に接着させて保管される。このように振動器

ハウジング 90 を保管することで、接着部 93 への塵の付着を防止することができる。ボード 95 は、例えば透明アクリル板で形成される。

420 なお、本発明は上述した実施形態に限定されるものではなく、必要に応じて種々の応用実施または変形実施が可能であることは勿論である。例えば、上述の実施形態では、パッチ 100 を顔の所定部位に貼り付けた状態でパッチ 100 の上から顔にマスク本体部 10 を装着することとしているが、パッチ 100 を貼り付けずにマスク本体部 10 を装着する場合、パッチ 100 に代えて他の化粧品や薬剤を顔に塗布
425 した状態で顔にマスク本体部 10 を装着する場合のいずれも含むものとする。この場合においても、引っ張り部 20 により顔の表皮を引っ張りつつ振動発生機 3 により顔に振動を発生させることにより、美顔効果があることは勿論である。

430 また、上述の実施形態においては、引っ張り部 20 により顔の表皮を左右方向および高さ方向のいずれにも引っ張ることとしているが、引っ張り方向を左右方向および高さ方向のいずれか一方のみとしても従来にも増して美顔効果が向上することも勿論である。

産業上の利用可能性

435 本発明は、美容マスク装置に利用できる。具体的には、顔の皺のばしと顔のシェイプアップを同時に実現する場合に役立ち、需要者の更なる美への要求を満足し、産業の発達に大きく貢献する。

符号の説明

440 1：美容マスク装置、2：美容マスク、3：振動発生機、10：マスク本体部、11乃至15：開口、16a：左側端部、16b：右側端部、20：引っ張り部、30：左右方向引っ張り部、30a：左方向

引っ張り部、30b：右方向引っ張り部、31a：左側基部、31b：
右側基部、32a，32b：連結部、33a：左方向延長部、33b：
445 右方向延長部、34a，34b：上側輪郭線、35a，35b：下側
輪郭線、36a，36b：後側輪郭線、37a，37b：額相当部の
輪郭線、38a，38b：顎相当部の輪郭線、39a，39b：挿入
口、41a，41b，51a，51b：間隔、42a，42b，43
a，43b：マジックテープ、45：顔の左右方向の中心ライン、4
450 5a，45b：終端部（マジックテープ）、50：高さ方向引っ張り部、
50a：左側高さ方向引っ張り部、50b：右側高さ方向引っ張り部、
52a，52b：連結部、52c，52d：領域、53a：左側高さ
方向延長部、53b：右側高さ方向延長部、54a，54b，55a，
55b：マジックテープ、56a，56b：挿入口、57a，57b：
455 終端部（マジックテープ）、60：振動器、70：振動設定器、80：
電源、90：振動器ハウジング、91：収納空間部、92：挿入口、
93：接着部、94：孔、95：ボード、100：パッチ、110：
パッチ、120：美容マスク、140：振動器

請求の範囲

請求項 1

- 5 顔に装着されるマスク本体部を有する美容マスクと、前記マスク本体部に装着される振動器を有し前記マスク本体部を介して前記顔に振動を発生させる振動発生機と、を備える美容マスク装置において、前記美容マスクは、前記マスク本体部を引っ張ることにより前記顔の表皮を引っ張る引っ張り部を有することを特徴とする美容マスク装置。

10 請求項 2

- 前記引っ張り部による前記マスク本体部の引っ張り方向は、左右方向および高さ方向のうち少なくともいずれか一方を含み、前記引っ張り部は、前記マスク本体部を左右方向に引っ張ることにより前記顔の表皮を左右方向に引っ張る左右方向引っ張り部および前記マスク本体部を高さ方向に引っ張ることにより前記顔の表皮を高さ方向に引っ張る高さ方向引っ張り部のうち少なくともいずれか一方を有することを特徴とする請求項 1 に記載の美容マスク装置。
- 15

請求項 3

- 20 前記左右方向引っ張り部は、前記顔の左側に設けられる左方向引っ張り部を有するとともに、前記左方向引っ張り部と前記顔の左右方向の中心ラインを介して対称な位置に、かつ、前記顔の右側に設けられる右方向引っ張り部を有し、前記高さ方向引っ張り部は、前記顔の左側に設けられる左側高さ方向引っ張り部を有するとともに、前記左側
- 25 高さ方向引っ張り部と前記対称な位置であって前記顔の右側に設けられる右側高さ方向引っ張り部を有することを特徴とする請求項 2 に記

載の美容マスク装置。

請求項 4

- 30 前記左側高さ方向引っ張り部は、前記顎から前記顔の左側部にかけて前記顔の表皮を高さ方向に引っ張るように形成され、前記右側高さ方向引っ張り部は、前記顎から前記顔の右側部にかけて前記顔の表皮を高さ方向に引っ張るように形成されることを特徴とする請求項 3 に記載の美容マスク装置。

35

請求項 5

- 前記美容マスクは、前記顔の目、鼻、口に相当する部分に開口を設けつつ、前記顔の全体に至って、額、頬、顎を覆うように形成されるとともに、前記左側高さ方向引っ張り部および前記左方向引っ張り部
- 40 は、前記マスク本体部の左側端部に設けられた左側基部を有し、かつ、前記右側高さ方向引っ張り部および前記右方向引っ張り部は、前記マスク本体部の右側端部に設けられた右側基部を有し、前記左方向引っ張り部は前記左側基部から左方向に延びる左方向延長部を有して前記顔の表皮を左方向に引っ張るように形成され、前記右方向引っ張り部
- 45 は前記右側基部から右方向に延びる右方向延長部を有して前記顔の表皮を右方向に引っ張るように形成され、前記左側高さ方向引っ張り部は、前記左側基部から高さ方向に延びる左側高さ方向延長部を有して前記顎から前記顔の左側部にかけて前記顔の表皮を高さ方向に引っ張るように形成され、前記右側高さ方向引っ張り部は、前記右側基部から
- 50 ら高さ方向に延びる右側高さ方向延長部を有して前記顎から前記顔の右側部にかけて前記顔の表皮を高さ方向に引っ張るように形成されることを特徴とする請求項 4 に記載の美容マスク装置。

請求項 6

- 55 前記基部は、前記目の高さの相当位置に設けられるとともに、前記基部の輪郭線は、前記マスク本体部の額相当部の輪郭線と所定の曲線をもって滑らかに連続するように形成される上側輪郭線と、前記マスク本体部の顎相当部の輪郭線と所定の曲線をもって滑らかに連続するように形成される下側輪郭線と、前記上側輪郭線の後端と前記下側輪
- 60 郭線の後端を高さ方向に結んで形成される後側輪郭線と、を含み、更に、前記基部は、側方に延び、かつ、側方に行くにしたがって幅寸法が漸次減少するようにハの字状に形成され、前記左方向延長部および前記右方向延長部は、前記後側輪郭線側から左右方向に延びるように形成され、前記左側高さ方向延長部および前記右側高さ方向延長部は、
- 65 前記上側輪郭線から高さ方向に延びて前記顎から前記顔の側部にかけて前記顔の表皮を高さ方向に引っ張るように形成されることを特徴とする請求項 5 に記載の美容マスク装置。

請求項 7

- 70 前記マスク本体部は、可撓性を有する材料で形成されることを特徴とする請求項 6 に記載の美容マスク装置。

請求項 8

- 75 前記振動発生機は、前記振動器により発生する振動の強度、周期、乃至リズムを設定する設定器を有することを特徴とする請求項 7 に記載の美容マスク装置。

図1

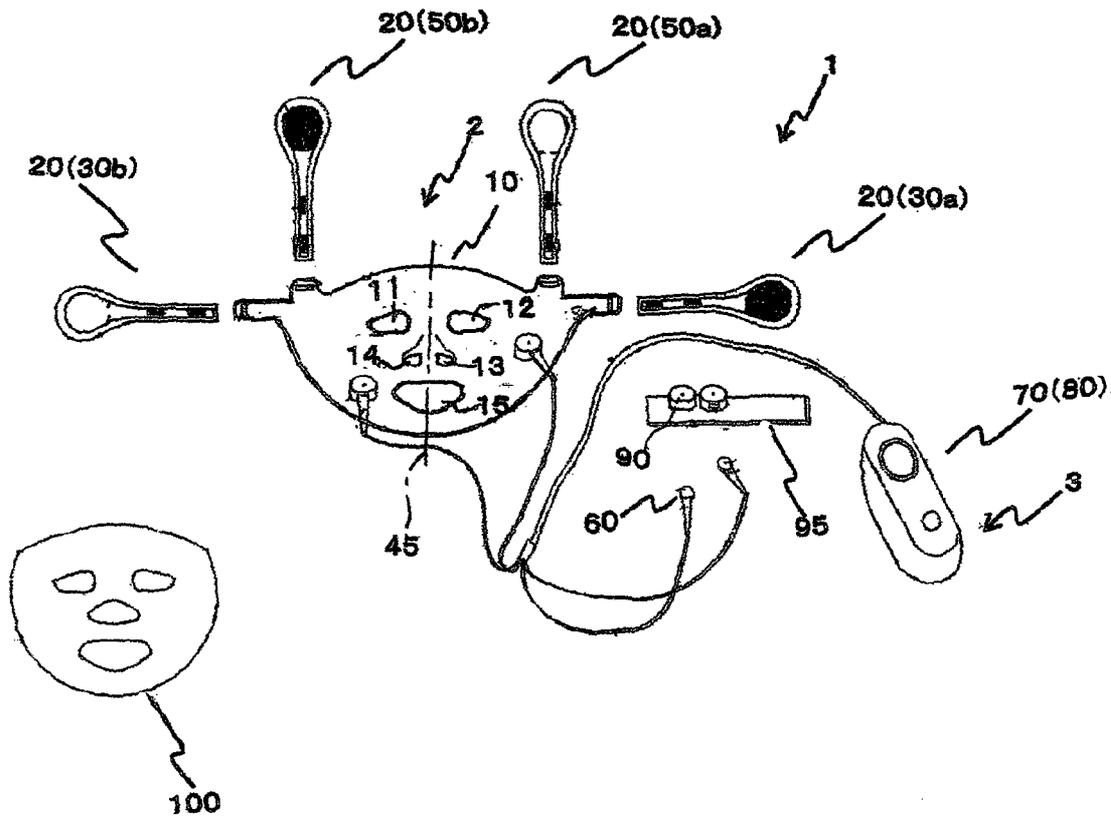


図2

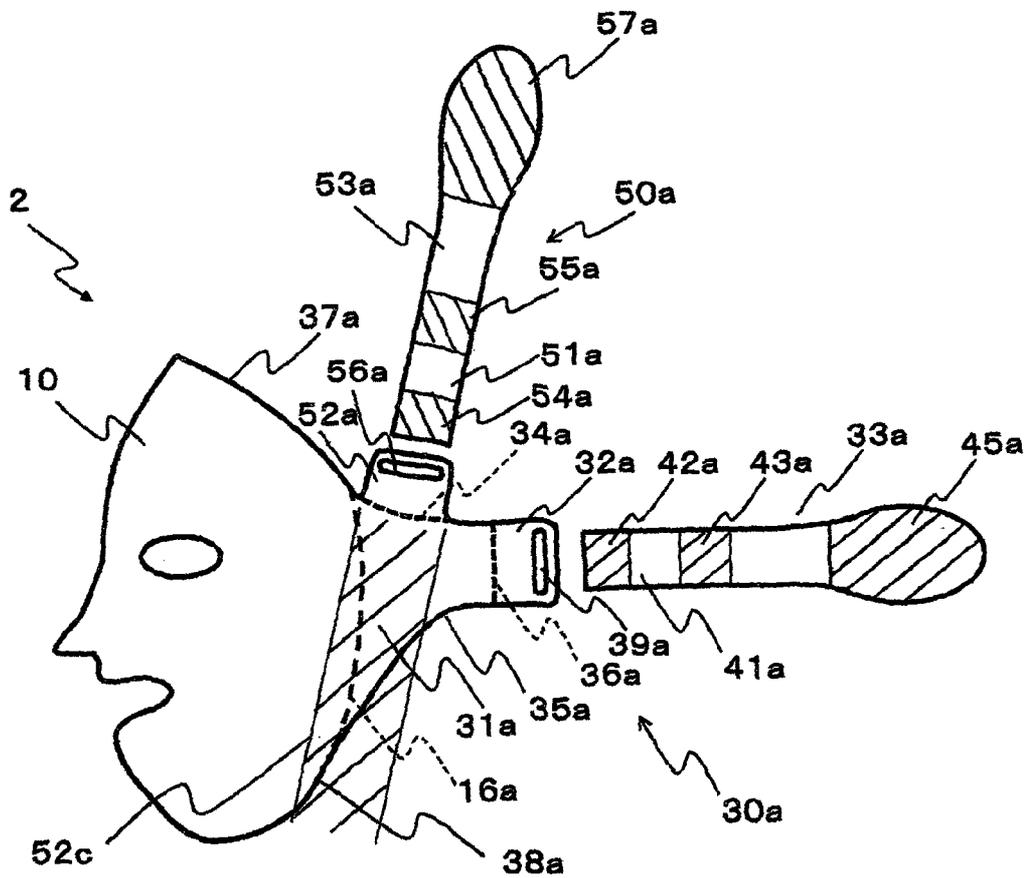


図3

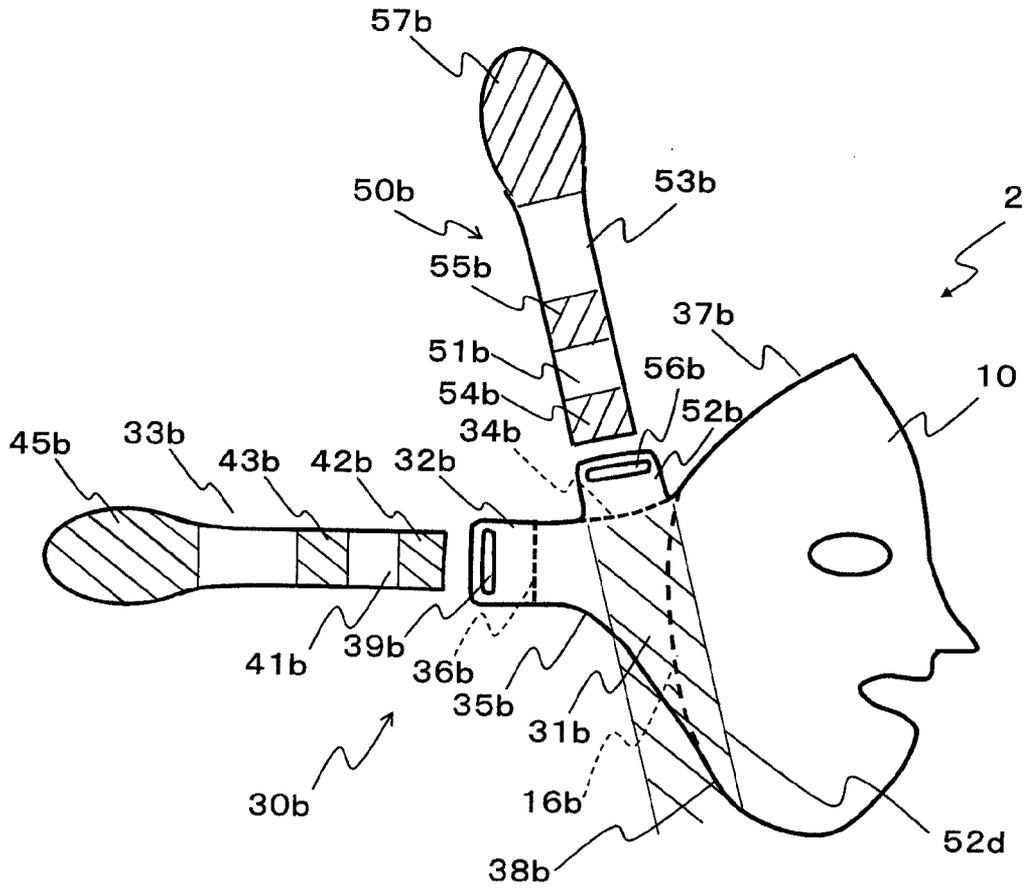


図4

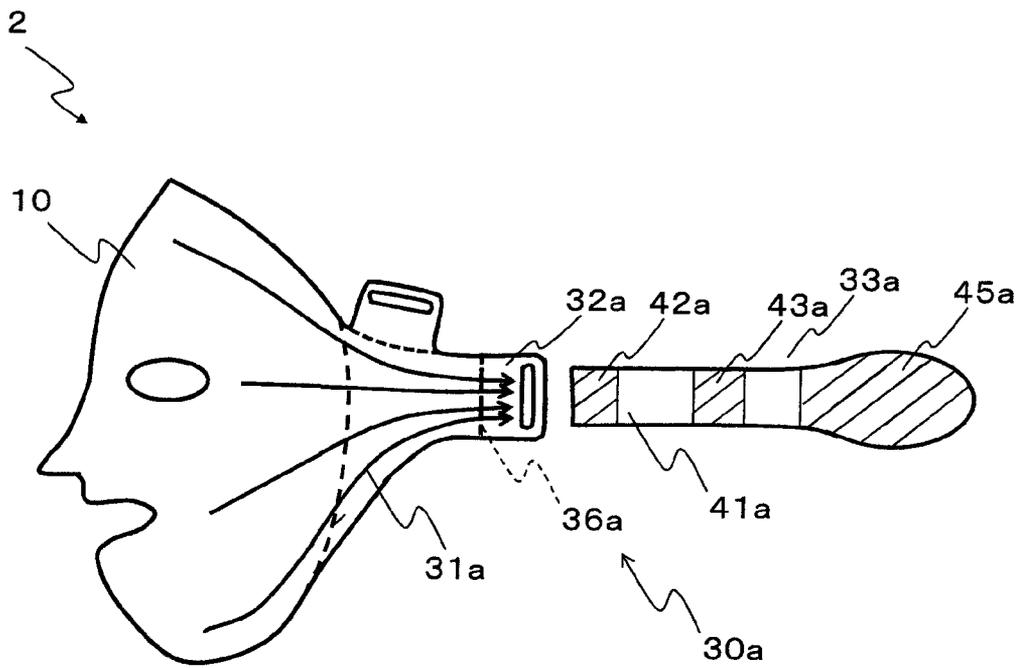


図5

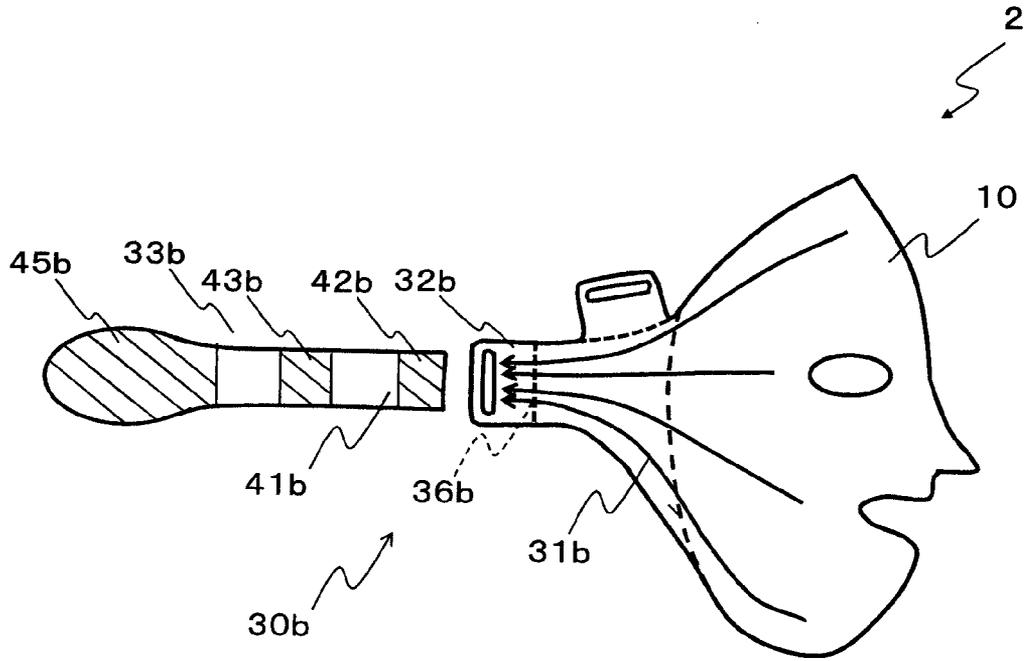


図6

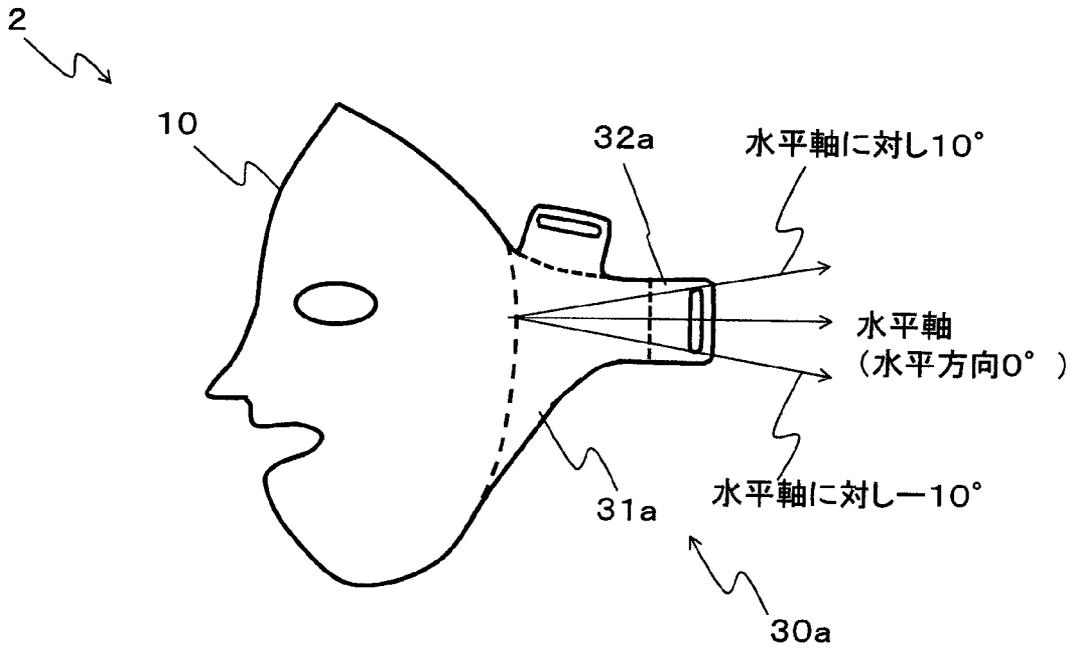


图7

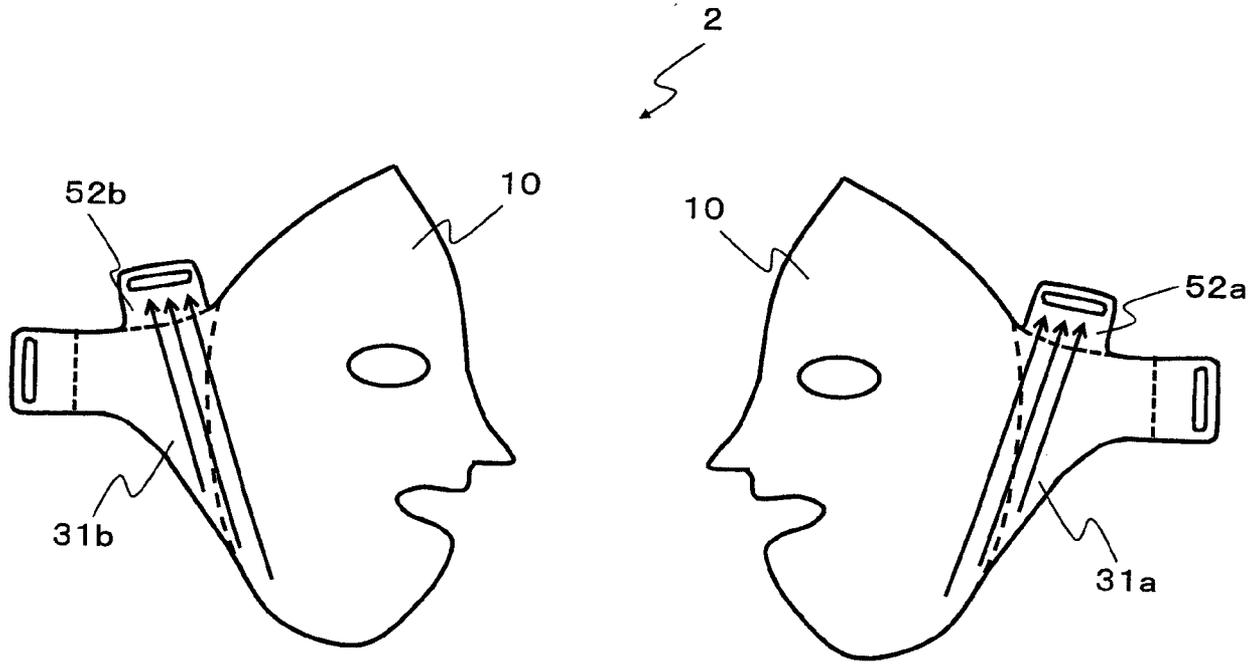


图8

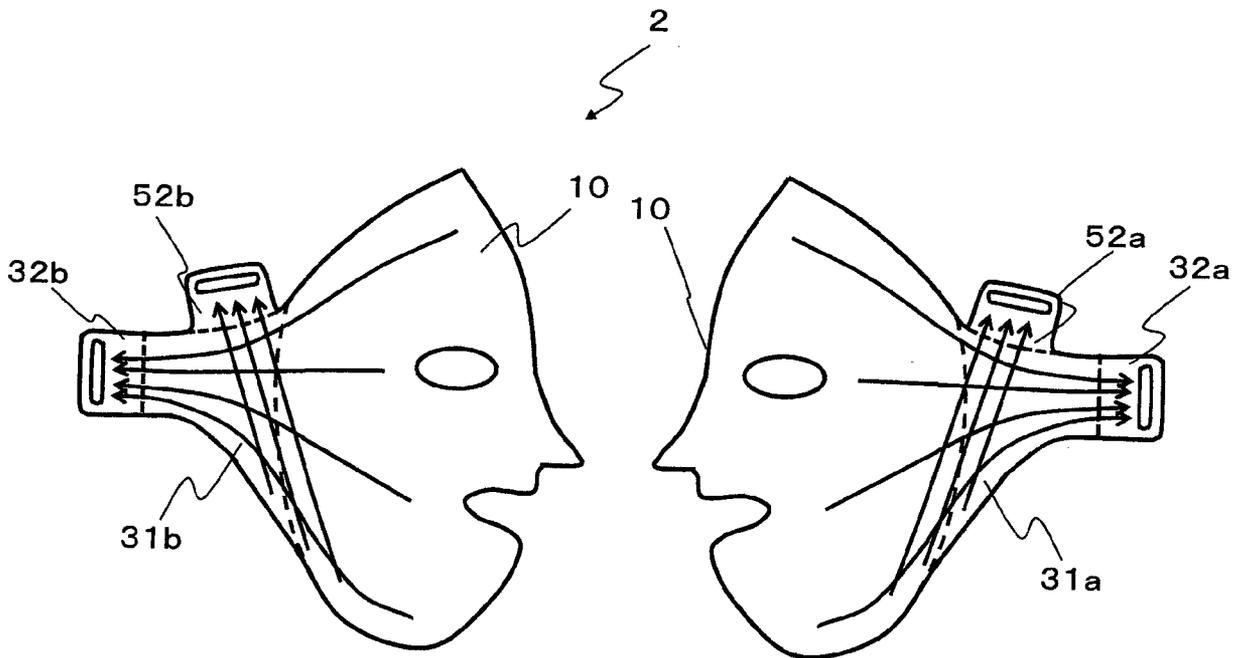


図9

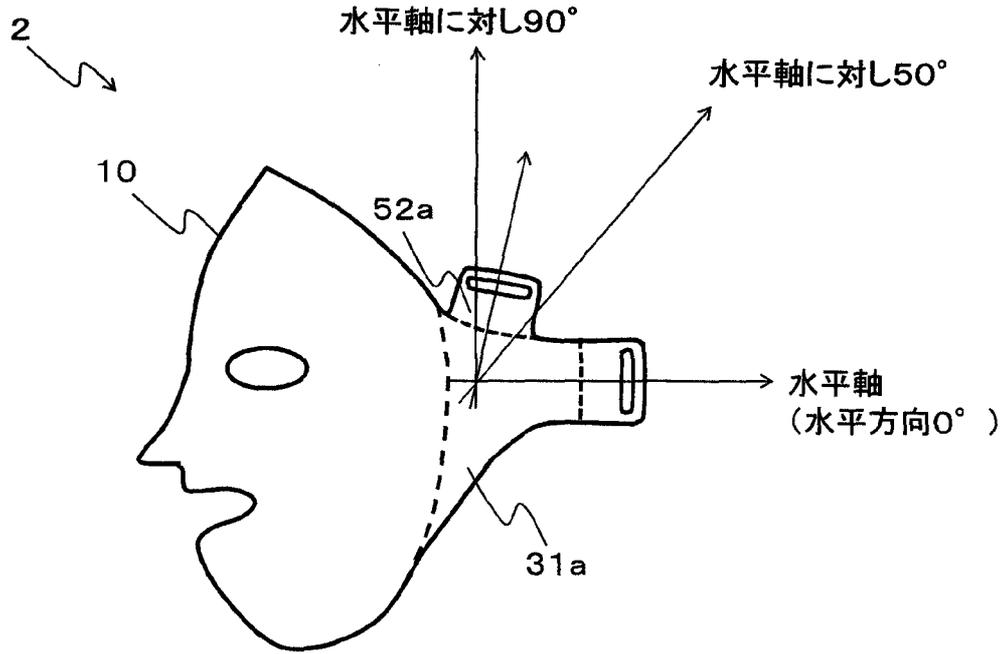
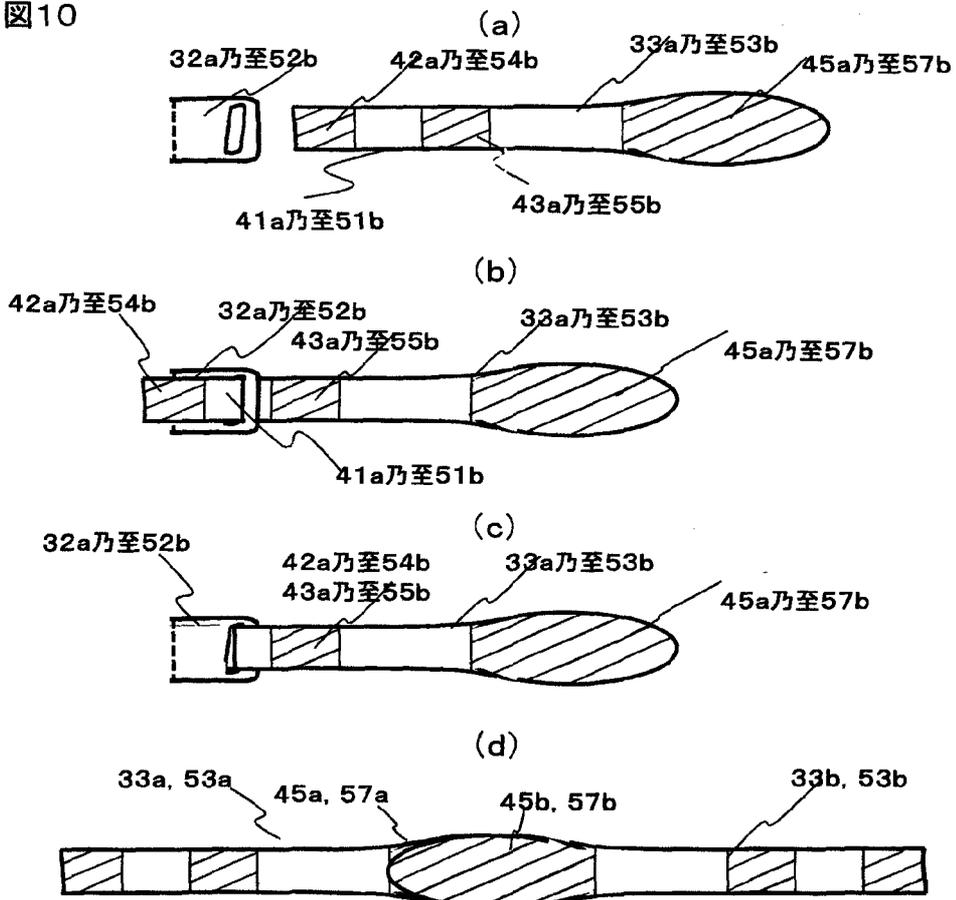


図10



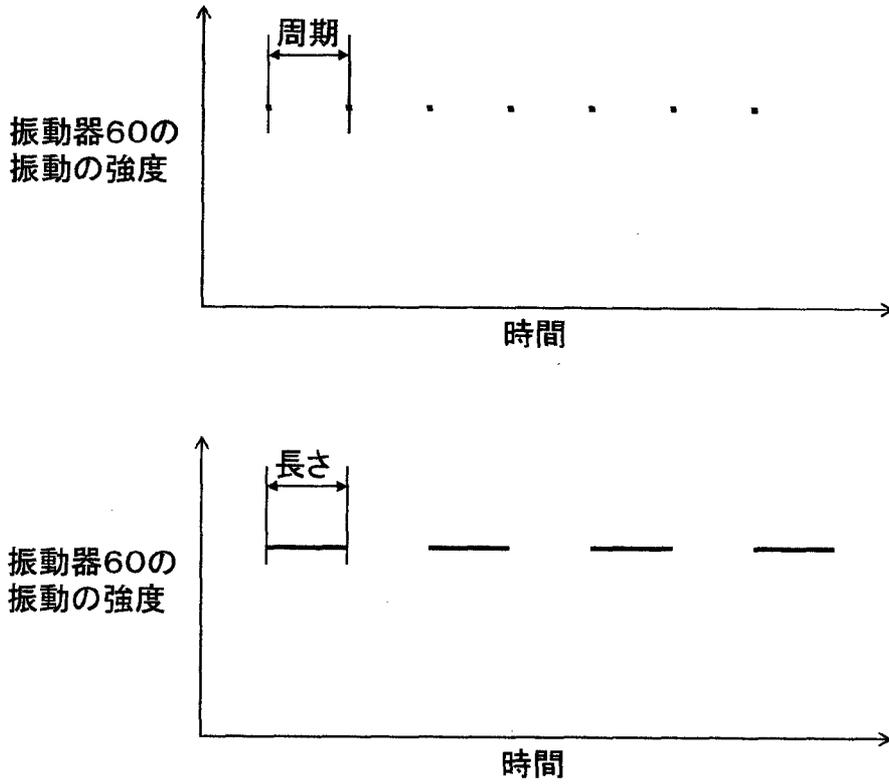


図12

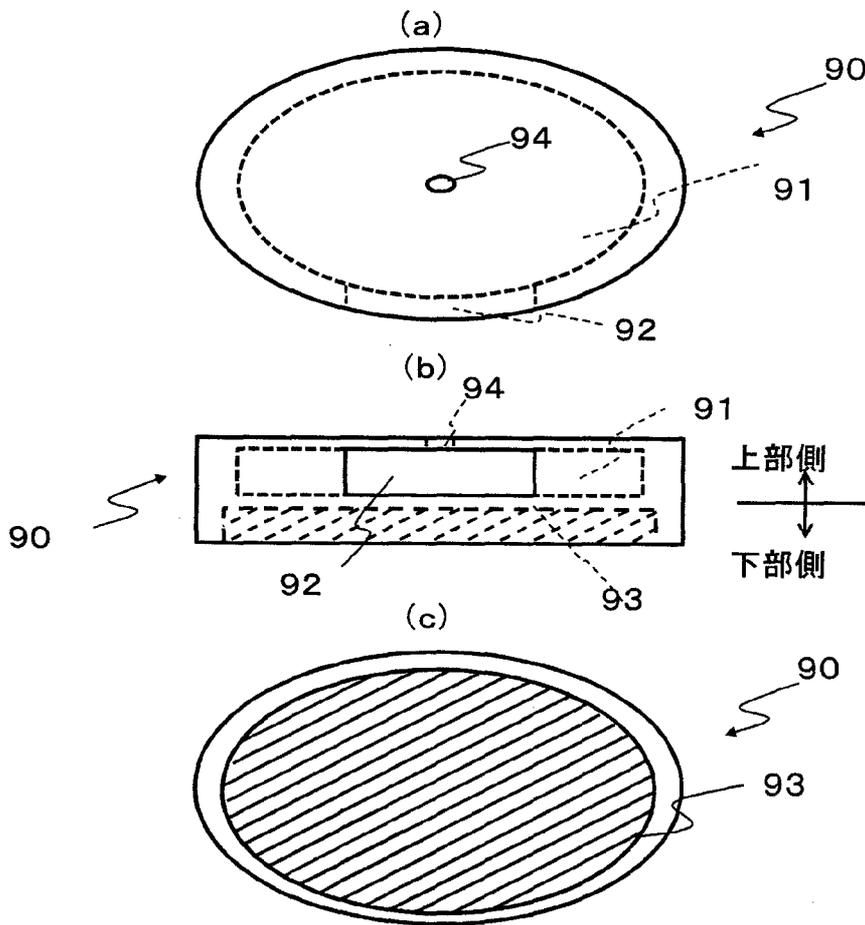


図13

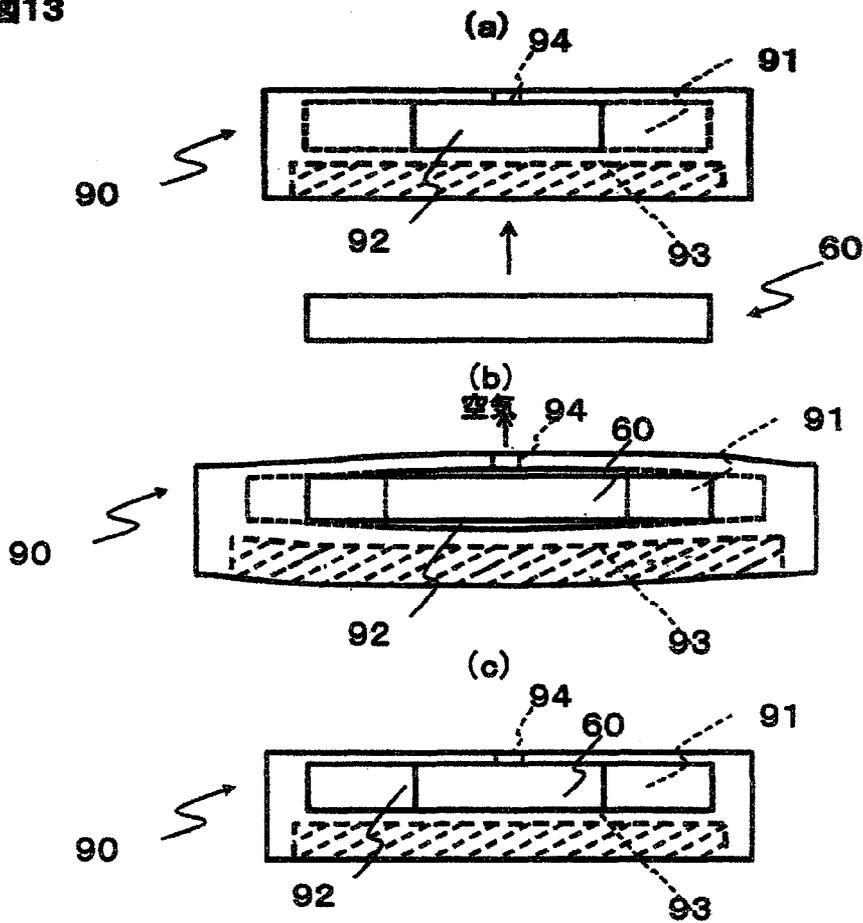
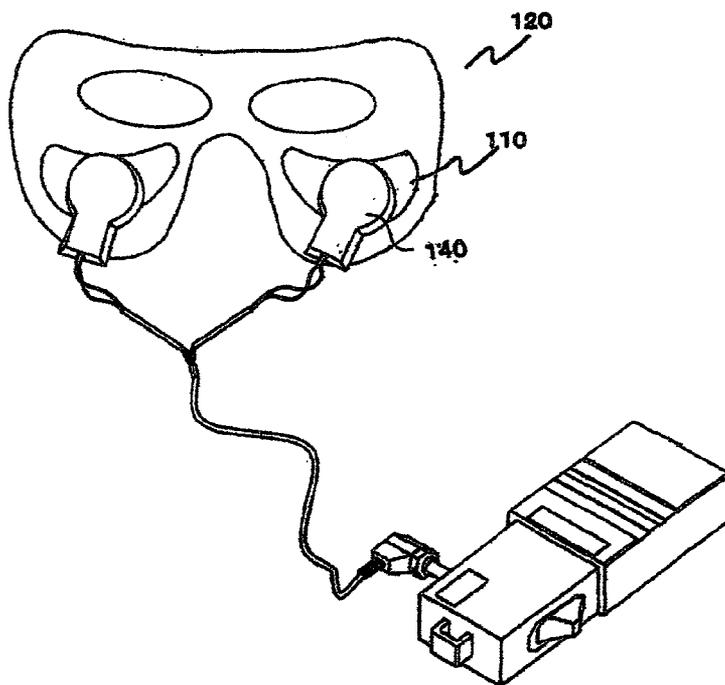


図14



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2013/053774

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A45D44/22 (2006.01) i, A61H23/02 (2006.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A45D44/22, A61H23/02

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2013
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2013	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2013

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X Y	JP 2010-12188 A (Ritsuko OZAKI), 21 January 2010 (21.01.2010), paragraph [0005]; fig. 1, 3 (Family: none)	1-4, 7 5-6, 8
Y	JP 39-14822 Y1 (Aiko YAMANO), 01 June 1964 (01.06.1964), page 1, left column, line 18 to right column, line 13; fig. 1 (Family: none)	5-6, 8
Y	JP 3016479 U (Mitsumasa ARAKAWA), 03 October 1995 (03.10.1995), paragraph [0005]; fig. 4 (Family: none)	5-6, 8

 Further documents are listed in the continuation of Box C. See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
05 March, 2013 (05.03.13)Date of mailing of the international search report
19 March, 2013 (19.03.13)Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2013/053774

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2005-27702 A (YAMAN Ltd.), 03 February 2005 (03.02.2005), paragraph [0038]; fig. 1 (Family: none)	8
Y	JP 3022336 U (YAMAN Ltd.), 22 March 1996 (22.03.1996), paragraph [0007]; fig. 1 (Family: none)	8

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))
 Int.Cl. A45D44/22(2006.01)i, A61H23/02(2006.01)i

B. 調査を行った分野
 調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))
 Int.Cl. A45D44/22, A61H23/02

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの
 日本国実用新案公報 1922-1996年
 日本国公開実用新案公報 1971-2013年
 日本国実用新案登録公報 1996-2013年
 日本国登録実用新案公報 1994-2013年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X Y	JP 2010-12188 A (尾崎りつ子) 2010.01.21, 段落【0005】、【図1】、【図3】 (ファミリーなし)	1-4, 7 5-6, 8
Y	JP 39-14822 Y1 (山野愛子) 1964.06.01, 第1頁左欄第18行-右欄第13行, 第1図 (ファミリーなし)	5-6, 8
Y	JP 3016479 U (荒川光政) 1995.10.03, 段落【0005】、【図4】 (ファミリーなし)	5-6, 8

C欄の続きにも文献が列挙されている。 パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー
 「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
 「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
 「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
 「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
 「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願日の後に公表された文献
 「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
 「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
 「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
 「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日 05.03.2013	国際調査報告の発送日 19.03.2013
国際調査機関の名称及びあて先 日本国特許庁 (ISA/J P) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 大瀬 円 電話番号 03-3581-1101 内線 3386

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y	JP 2005-27702 A (ヤーマン株式会社) 2005. 02. 03, 段落【0038】 , 【図1】 (ファミリーなし)	8
Y	JP 3022336 U (ヤーマン株式会社) 1996. 03. 22, 段落【0007】 , 【図1】 (ファミリーなし)	8